

2010年2月【カイビガン】通信 No.01

-フィリピンに於ける貧困削減への挑戦-



目次

1. 背景 —NGO 設立への歩み—
2. 第1回現地視察の報告
3. 今後の活動

1. 背景 —NGO 設立への歩み—

もう2年も前から TESDA（テストダ:フィリピン技術教育・技能開発機構）の職業訓練スペシャリストのウイルマ（WILMA）さんから、フィリピンの地方都市にて、貧困が原因で就学機会に恵まれない地方の子ども達に、手に職を付けさせて就職や起業が出来るように民間の職業訓練センターを設立したいので協力して欲しいと以下のような主旨の依頼を受けていた。

『フィリピンで NGO を設立して、職業訓練などを含む地域開発（Community Development）を核にした活動を全国に展開したい。とりあえずは、バタンガスに 3,300 平方mの私有地があるので、その近隣の貧しい漁村（タール湖）の住民を対象とした生活向上のための職業訓練を提供したい』

2. 第1回現地視察の報告

2-1. 現地視察の目的

これまで得た情報やウイルマさんの構想などの確認や調査

- 1) ウイルマさんの故郷にあるバタンガス市の土地の状況
- 2) TESDA の同僚達の協力体制の有無
- 3) 各種基金や日本大使館の「草の根無償資金協力」による訓練センター立ち上げの可能性。
- 4) 日本の NGO との連携模索

2-2. 現地視察の報告

1) 2月14日(日曜日) JL741 13:30 入国

宿泊ホテル: Crown Regency Hotel Makati 1026 Arnaiz Ave, Manila Philipines
—心ラーメンの隣、元 NIKKO ホテルのすぐ近くで約 6,000 円/泊

2) 2月15日(月曜日) バタンガスの訓練センター建設予定地視察

①マカティからアラバンまでバスで移動

エドサ通りのSMスーパーマーケット脇から乗り込む
約25分で50ペソ(約100円)【写真右】

②AlabangからLipaへバスで移動

67分 98ペソ(約200円)

【大きなバス停ではいっせいに物売りが乗車してくる】

③Lipa(リパ)から、サンタテレシータにジブニーで移動、所要時間30分(帰りはラッシュで50分)

乗車料金は35ペソ(約50円)

*ジブニーは安く

て、何処でも停車してくれる便利

な交通機関だ。でも、天井が低く、進行方向に対して横揺れなので腰痛の人には辛いかも。



④サンタテレシータの町に到着

・町役場に行って町長さんに挨拶【右の写真は町役場】





・女性の町長もウイルマさんの活動支援者で、突然の訪問にも大歓迎してくれた。

・写真：久米の隣が町長、左端がウイルマさん

⑤ウイルマさんの私有地（今後サイトと記す）にトライスクル（サイドカー付バイク）で約 10 分



写真左：トライシクル、

中央：サイトに建つ簡易な竹製の小屋とウイルマさん、ウイルマさんの弟

（中央）と従兄弟、写真右：サイトは椰子や雑草のジャングル状態で周辺には竹藪も多い

*サイトはウイルマさんの姉の土地も使用可能で、それを含めると 6500 平方mにもなる。

⑥サイトの価値や活動イメージなど久米的所感

A) タール湖畔まで 100mm で、湖畔には 14 の町（村）に漁師が住んでいるが、今回は視察できず。テラピアの養殖業者が韓国などの合弁企業に押されて貧困層が増えているとの話だ。

ここの周辺住民の貧困軽減の取組みがしばらくの活動目的となるだろう。

B) 土地の広さは十分で、エコツアーのハイキングロード沿いにあるので今後利用価値は高まる。

C) 土地は斜面が多く、電気や水道のライフラインが未整備なので利用までに時間がかかる。

ソーラー発電の導入で、エコツアーを意識した環境にやさしい取組みを進めたい。

D) 竹が豊富にあるので釘を使わない建物を校舎に、職業訓練をやってみるのも面白い。

但し、職種に制限がある。火を使ったり、重量物を扱う職種は避けなければならない。

E) ウイルマさんの弟が近くに住んでいるし、近所は家族・親類が多い。

インフラ整備に時間がかかるので、しばらくは小学生にニワトリ、中学生はヤギなどを放し飼いし、タマゴや乳製品の現金収入プロジェクトを実施するのも面白いだろう。

日本からニワトリ基金やヤギ基金で支援することから始めてみたい。

F) 近隣の地場産業は漁業、竹細工、伝統工芸（ピニャと呼ばれるパイナップル繊維の布地の縫製）、コーヒーがあるので関連産業の育成を目指す。

*ウイルマさんの構想は援助団体や基金の情報収集が豊富で、友人ネットワークの構築に大きな成果が見られるが、具体的な進め方が手薄になっている。

例えば、職業訓練を提供して、受講者が就職や起業しても永年運営する資金確保や自立の目途

を考えていないような気がする。基金や援助を永年継続して受けるのは期待できないと覚悟して、最初から自立できる規模とある程度の収入を期待できる目途を立てるべきである。

例>低料金を徴収した漁師の船舶修理・メンテ訓練（湖畔にて）、縫製訓練（学校のユニホーム供給）、竹工芸訓練（みやげ物や道具製作）、食品加工（時折タール湖で大漁に獲れる鰯に似た魚を腐らせている）、エコガイドなどが考えられる。またコーヒーの販売ルート（フェアトレード）が確保できれば収入源としても自活の道が期待できる。ニワトリやヤギプロジェクトもいずれは農業や畜産のコースに繋がる可能性がある。

*このプロジェクトのコンセプトを【貧困層の若者を対象とした、起業に繋がる職業訓練（人材育成）を主体とした地域開発】を目指せば、今後も大きなプレはないような気がします。

3) 2月16日(火曜日)在フィリピン日本大使館及びフィリピン技術教育技能開発機構(TESDA)の表敬訪問

①午前 11 時から約 1 時間、大使館の城野 1 等書記官をたずね、草の根無償資金協力案件申請の条件などに関するお話を伺った。その結果を以下に箇条書きで紹介します。

- ✓：現地 NGO 法人が申請する
- ✓：1 件 1000 万円程度未満で、年間 200~250 件の申請がある。
- ✓：毎年 15~20 件実施し、その半分はミンダナオ開発に関連した案件が採用されている
- ✓：3 つの重点テーマ：①持続的経済成長 ②貧困削減 ③ミンダナオ開発
- ✓：申請には NGO としての活動成果や収支決算など最低でも 2 年以上の活動報告が必要
- ✓：豊富な経験や成果を挙げている NGO からの申請も少なくないようだ（久米主観）
- ✓：地方自治体（サンタテレシア）からの申請も可能だが、直接的な活動が制限される。

*久米所感：ここまでウイルマさんの計画は構想段階で、何の成果も出ていない。まして他力依存型だったのでこれから成果を求められる。ここ 2~3 年は地道に現地での NGO 組織作り、日本側の支援体制作り集中すべきかと思われる。

②午後 2 時から TESDA 訪問。

主な話題は以下の通りです。

- ✓：大使館城野書記官と TESDA 副長官を表敬
写真中央が PASTOR GUIAO 副長官、
副長官の左隣が城野書記官
- ✓：ウイルマさんの職場であるカリキュラム開発
部署には上司と同僚が仕事だったが、どう
見ても仕事をしているような気配はない。暇を
持て余している状態だ。
- ✓：私が勤務していた PEVOTI の平屋の家屋は他
の目的で使用されており、懐かしさも半減。
- ✓：右の写真に写っている元同僚達も笑顔で迎えて
くれたが、高血圧や持病持ちぬしばかりで覇気がなかった。今思えば、私達が滞在してい
た頃が彼らの最も輝いた時期なのかもしれない。



- ✓：私が帰国した 1999 年に開所した女性訓練センターを視察したが、多くの訓練科が閉鎖していた。実施しているのは溶接と自動車整備のみだった。しかも、両科とも一人の指導員のみで訓練を担当しており、残念ながら JICA 支援の効果が出ていなかった。

4) 2月17日(水曜日)

- ・午後から日本の財団法人結核予防会が支援する NGO の CANOSSA を視察
写真で紙芝居的に報告しましょう。



- ✓：CANOSSA という NGO はマニラでも最も貧しい地域であるトンド地区で活動しているクリスチャン系の団体である。

主な活動は、医療（産科、歯科、結核対策など）で、地域住民の生活向上支援の職業訓練として縫製コースを実施している。



- ✓：かつてマニラのごみ廃棄場所で名を馳せたスモーキーマウンテンがあるトンド地区。

今も尚、最貧困地域で治安も悪く、一般のタクシーもこの地域には入りたがらない。

インパクトのある写真撮影はしなかったが、援助の限界や自らの無力感を味わった。



- ✓：CANOSSA が提供する縫製の訓練コース。決まった訓練生がいるわけではない。数人のスタッフが、同団体が運営する小学校の制服を製作しているので、地域の住民にも縫製技術を指導している。カリキュラムがあるわけではなく、もちろん教材さえも無い。

ウイルマさんはここにカリキュラムを導入し、受講生に TESDA から国家技能資格を取得できるように指導していくことを約束した。



5) 2月18日(木曜日)

午前＝活動や写真のまとめ

午後＝JL742 14:50 帰国の途に着く

3. 今後の活動予定

- 1) サイトの整備

- ①ジャングル状態を景観や資源（樹木、土など）を活かした小道やバンブーハウスの建築
- ②管理者常住のためのインフラ整備（バンブーハウスに電気と水道、バス・トイレの確保）
⇒日本人ボランティアも気軽に宿泊できる規模を想定していますので、草刈や将来実施する訓練や生産の技術指導をお願いできる人を募集します。

2) サイトの周辺の実態調査

- ①貧困層住民の実態：緊急性の把握
- ②地場産業の実態と発展及び阻害要素
- ③地場産業と職業訓練のマッチング

3) プロジェクトプロポーザルの作成

- ①上記を元に、2～3年後に草の根の申請を目標に、活動目的や目標、投入を描きます。

例えば、

- a) CANOSSA カリキュラム導入や指導法などの支援
- b) サイト地域住民の中から2～3名を CANOSSA に派遣して、縫製の指導者を育成する
- c) 財団法人結核予防会がキャンペーンの時に配るマスコット（写真）のデザインや作成のカリキュラム及び教材開発=CANOSSA とのコラボ
- d) サイトの活用：ニワトリやヤギプロジェクト
- e) 地場産業と職業訓練のマッチング
- f) コーヒーや魚の保存食など一村一品運動とフェアトレード

- ②このサイトで職訓主体の地域開発プロジェクトを実施する可能性評価として、SWOT 分析を行います。（S：組織の強み、W：組織の弱点、O：外的なチャンス、T：外的な脅威要素）



4) 国内支援の組織化：呼びかけ

フィリピンや NGO 活動に興味を持たれ、且つこのプロジェクトに賛同いただける方々を募って、国内 NGO を設立したいと希望しています。

とりあえず、同じ目的を共有する人たちのサイトを持ち、余裕のある時間や自己資金で気軽に参加できる組織作りを目指します。

私自身が3カ国9年間の JICA 専門家で「やり残した支援」の悔いがあり、今回は70歳までの15年間は付き合ってみないと気長に考えています。

しばらくは支援の価値や可能性の確認で時間を費やしますが、確認できれば皆様に声をかけますので、その節はよろしく願いいたします。

* 因みに次回は6～9月の間に上記したサイト周辺の実態調査や草刈、細道やバンブーハウス建築に出かける予定です。

時間とお小遣いに余裕のある方は是非、ご一緒しましょう。

以上。